

株主メモ

Stockholder Memo

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 毎年6月に開催

基準日

定時株主総会 3月31日

期末配当 3月31日

中間配当 9月30日

その他必要のあるときは、あらかじめ公告して定めます。

株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号

特別口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社

同事務取扱場所 〒541-8502

(連絡先) 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号

三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部

TEL (通話料無料) 0120 (094) 777

公告方法 電子公告とし、当社ウェブサイトに掲載いたします。なお、電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載いたします。
ウェブサイト <https://www.kfc-net.co.jp/>

上場証券取引所 東京証券取引所 スタンダード市場

単元株式数 100株

単元未満株式の
買取請求受付場所 証券会社等ご利用の株主様はお取引の証券会社等へお申し出ください。
証券会社等ご利用でない株主様は左記特別口座管理機関にお申し出ください。

ウェブサイトのご案内

Website



<https://www.kfc-net.co.jp/>

当社ウェブサイトでは、株主・投資家の皆様に対して、企業情報や財務情報をはじめとして、事業活動やその動向を紹介しております。当社をよりご理解いただくためにも是非アクセスしてください。

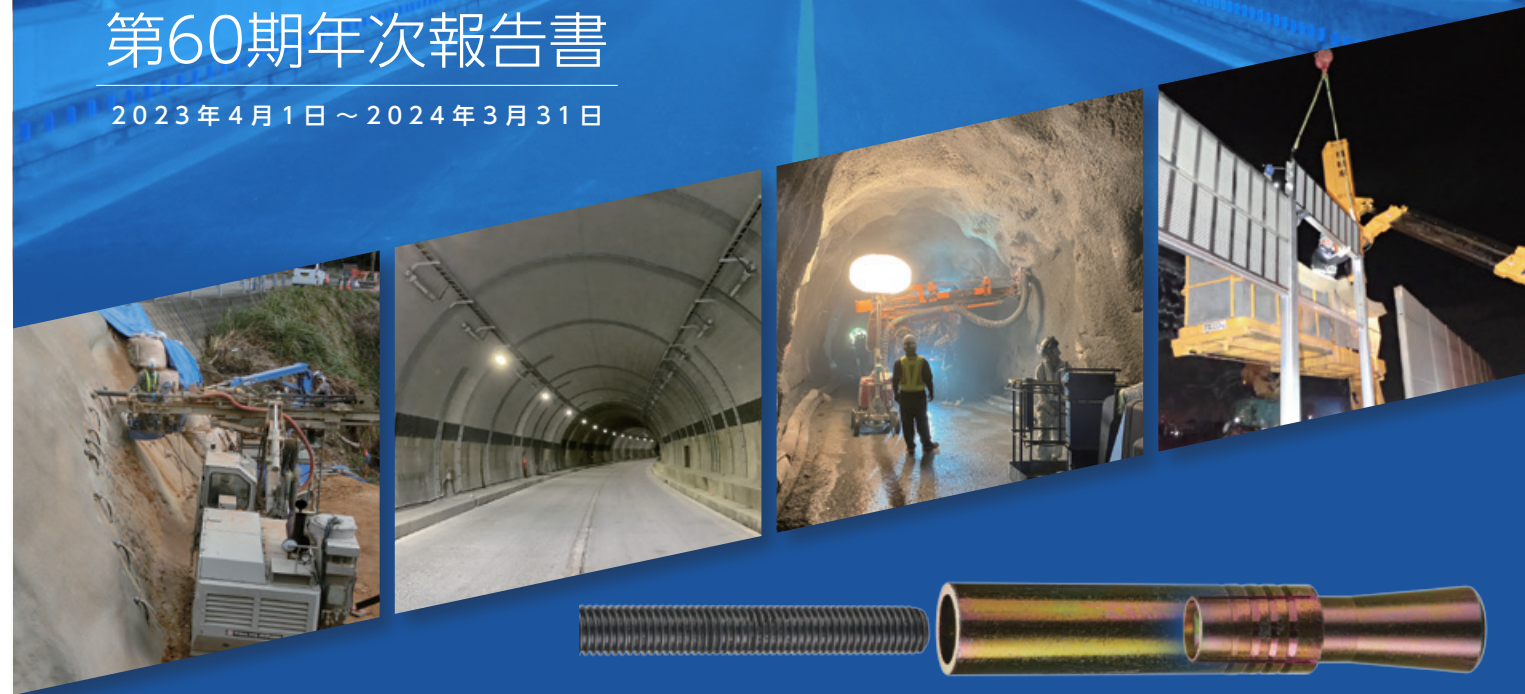
株式会社 ケー・エフ・シー

KFC REPORT

時代のニーズに対応する、先進の技術を追いつめて

第60期年次報告書

2023年4月1日～2024年3月31日



株式会社 ケー・エフ・シー

証券コード：3420

株主の皆様には、 平素より格別のご高配を賜り、 厚く御礼申し上げます。

当社は2024年3月31日をもって第60期(2023年4月1日から2024年3月31日まで)の事業年度を終了いたしましたので、ここに事業の概況並びに決算の内容についてご報告申し上げます。



代表取締役社長 高田 俊太

企業理念

- 一、私たちは信用を重んじ、社会の発展と豊かな環境づくりに貢献します。
- 一、私たちは時代のニーズに対応し、常に変貌する企業を目指します。
- 一、私たちは社員相互の信頼のもと、人材を育成し、希望に満ちた企業を創造します。
- 一、私たちは常に学ぶ姿勢を持ち、自己と企業の進歩、改善を目指します。

第60期の業績について

当連結会計年度におけるわが国経済は、コロナ禍の終息傾向により経済活動が正常化に向かう中、企業の業況判断も一部において改善するなど、一定の回復傾向が見られました。

しかしながら、依然として原材料価格の上昇や電子部品の供給不足、国際情勢に端を発するエネルギーコストの上昇などの諸要因が企業活動や消費動向に未だ不透明な影を落としており、今後も予断を許さない状

況が続いております。

当社グループの関連する建設業界においては、建設資材価格の上昇傾向が継続する中、慢性的な人員不足の問題に有効な解決策を見出すことが難しく、依然として厳しい事業環境が続いております。

このような状況のもと当社グループは、当社の有する豊富な製品・工法群をベースとした最適なソリューションを提案し、需要先のニーズに応えることで、公共事業を中心とした政府建設投資を中心に商品の拡販と建設工事の受注に努めてまいりました。

この結果、当連結会計年度の売上高は、250億70百万円となりました。

収益面につきましては、営業利益16億21百万円、経常利益17億20百万円、親会社株主に帰属する当期純利益11億77百万円となりました。

今後の見通しについて

今後の見通しにつきましては、世界的な物価上昇の影響を受けながらも、コロナ禍からの社会経済活動の再開で個人消費や設備投資、インバウンド消費などが活発化するものと見込まれますが、引き続き金融情勢、地政学リスクに注視が必要な状況にあります。

一方、建設業界においては、公共建設投資は堅調なものの、自然災害等による工事発注の延期・進捗遅れなどの懸念のほか、建設資材価格や運搬費の高騰、建設技術者・技能労働者の慢性的不足や建設業におけるデジタルトランスフォーメーションの進展など、数多くの課題を抱えており、事業環境をめぐる見通しはなお不透明な状況が続いております。

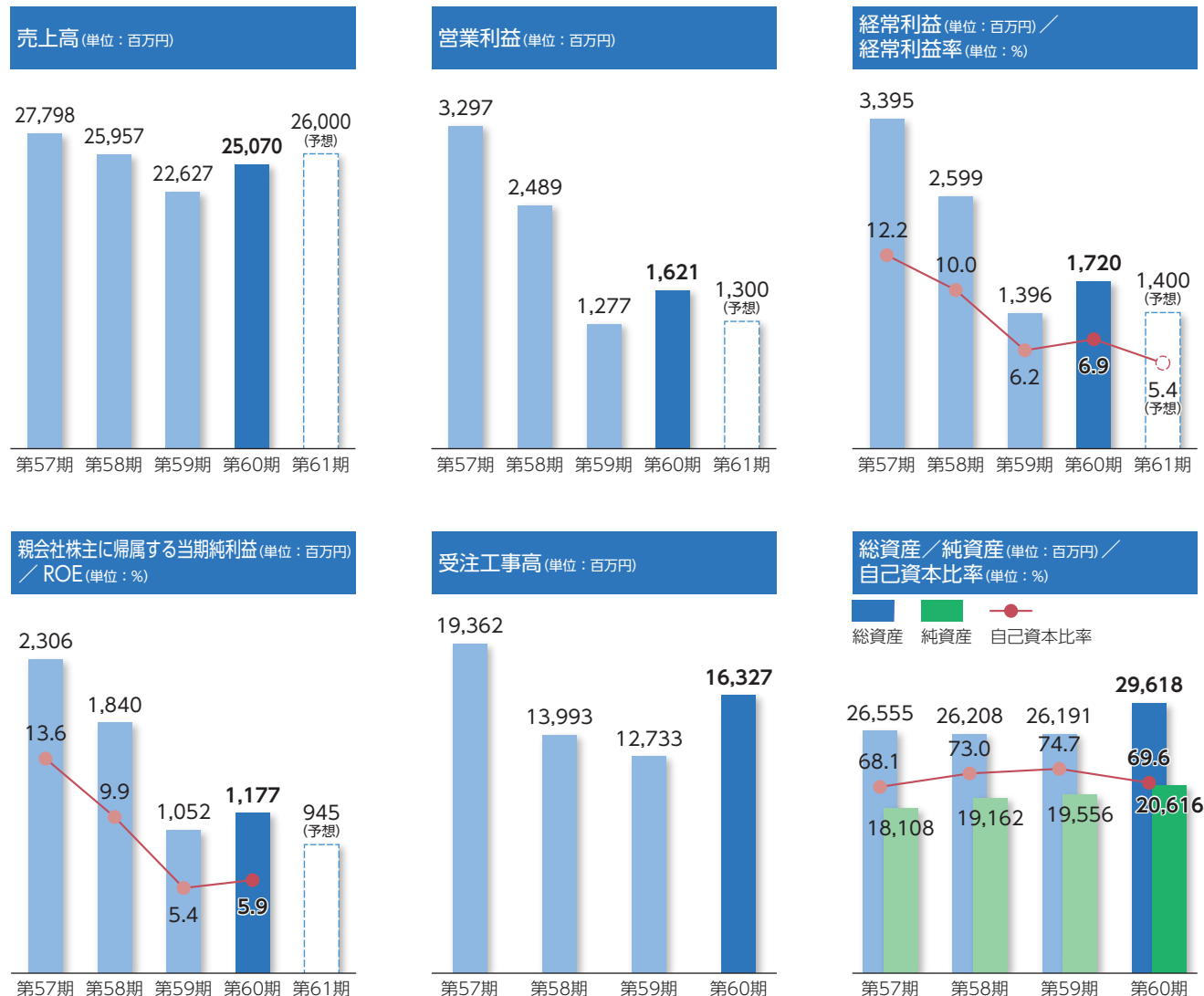
このような状況のなか、当社は、建設DXの推進や多様な人材の確保と育成、働きがいやワークライフバランスなどの時代の要請に応えながら、次の成長ステージへの事業基盤を創出するとともに、環境・社会と共存できるサステナブルな事業体制を構築することに注力し、中長期的な視点で持続的に成長する企業を目指してまいります。

また、常にオンリーワン技術にチャレンジする当社の精神を礎とし、豊かな社会資本・インフラ整備に貢献する「業界のリーディングカンパニー」としての企業体制を確立してまいります。

これらの着実な積み重ねにより、いかなる市場環境においてもステークホルダーの皆様のご期待に応えることができる企業力を築いてまいります。

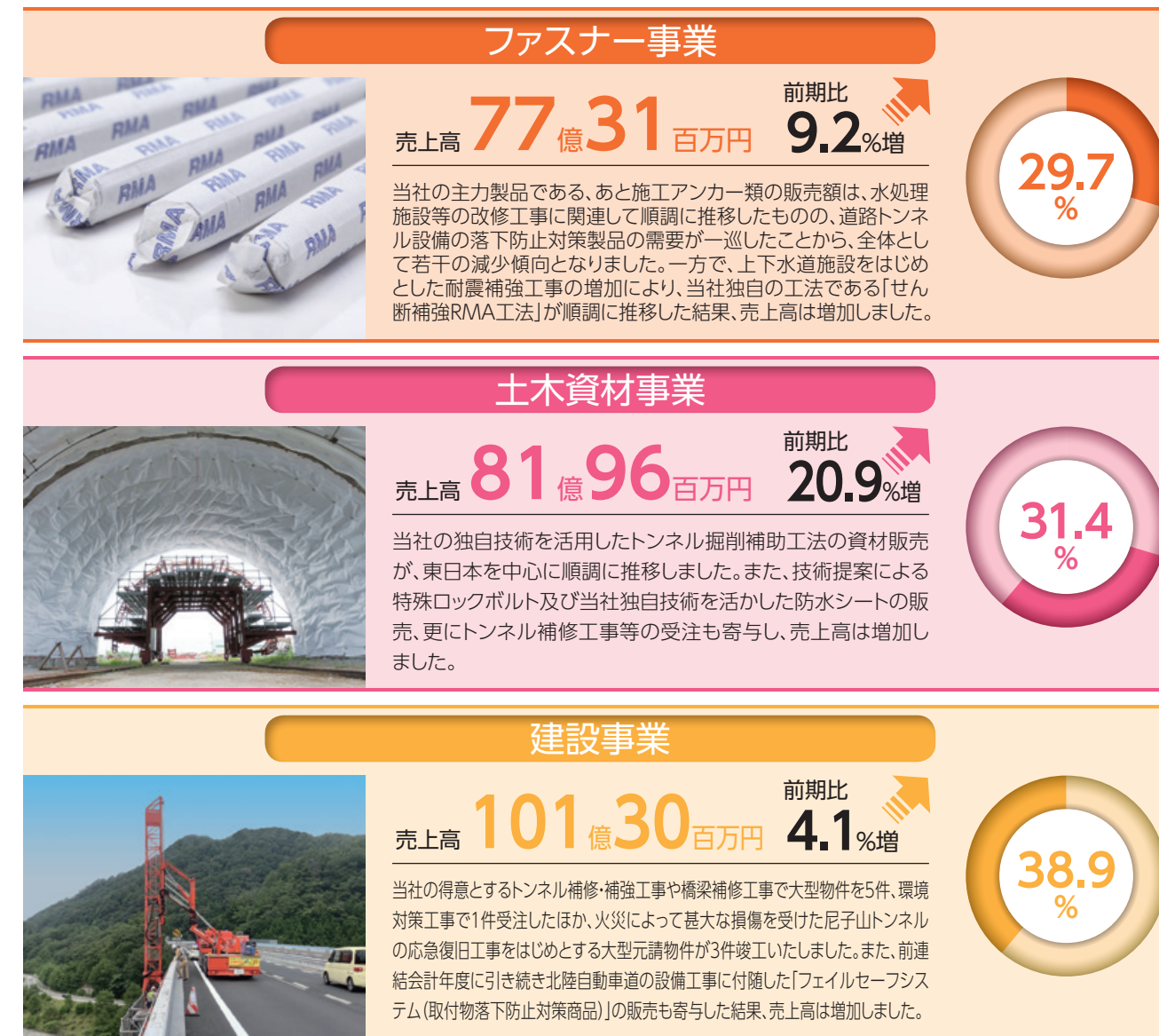
株主の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

人件費をはじめとした販売費及び一般管理費の増加があったものの、売上高の増加の影響などにより、増収増益となりました。



事業部門別概況

セグメント間の内部売上高又は振替高を含めて記載しております。



いかなる市場環境においても影響されない真の企業力を目指して

～ 業界に先駆けて高付加価値の製品・工法を開発し、持続的成長を可能にする企業グループへ ～

高度な社会インフラ整備の実現に向け、常に「オンリーワン」技術にチャレンジし、
豊かな社会資本・インフラ整備に貢献する専門家集団としての責務を果たしてまいります。

基本戦略

- 1) 収益力の向上
- 2) 技術・開発力の強化
- 3) 働き方改革
- 4) 経営基盤の再構築

重点施策

DXの推進

- 課題の可視化と最適解の明確化
- アンテナの高いDX人材育成
- 「楽しい」の探求

人材の活躍と成長

- 多様な人材の確保と育成
- 働きがい・ワークライフバランス

投資戦略

- 研究・技術開発
- 成長分野への投資
- 人材投資
- 設備投資

西日本高速道路株式会社より社長表彰を拝受

～山陽自動車道 尼子山トンネル火災における災害復旧の取り組みについて～

2024年3月22日、西日本高速道路株式会社（以下：NEXCO西日本）の本社にて開催された感謝状贈呈式に出席し、NEXCO西日本 前川秀和社長より表彰状を拝受しました。

今回の対象工事「山陽自動車道 尼子山トンネル覆工背面応急復旧工事」は、2023年9月に過去に前例のない“火害”により被災したトンネルの復旧に関わる工事で、火害により覆工コンクリートが剥離した箇所で地山と覆工の間に空洞が確認されたことから、覆工補修に先立ち地山の安定を図ることを目的とした空洞注入工事です。

先行工事業者である立場から、即時協力業者を招集し施工体制を確立させ着手し、各復旧工事とも『早期解放』という共通目標に向けて一体となって完工できたことを評価されました。

当社は、これまで培ってきたファスニング技術と道路やトンネルなどの維持補修技術を活用し、高度な社会インフラ整備の実現に向けた取り組みを継続する企業として、今後も社会に貢献してまいります。

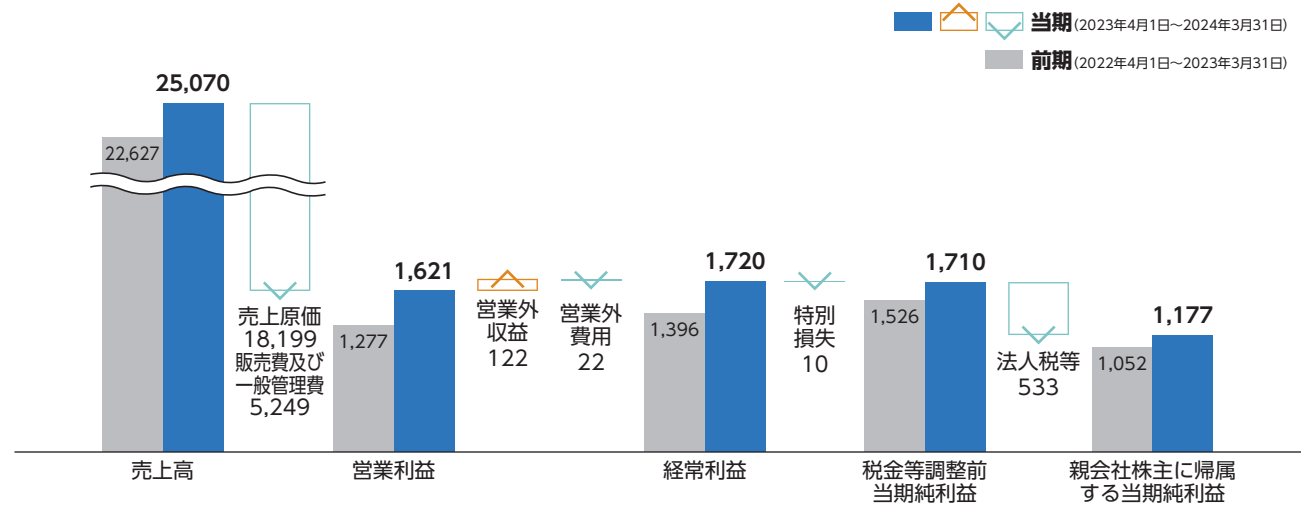


RBSフォーム工法
〈ウレタン樹脂による背面空洞充填工〉

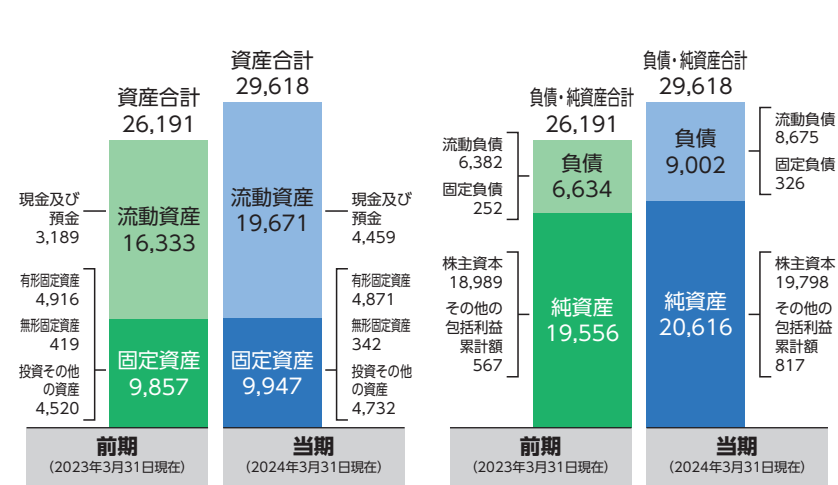
連結財務諸表

Consolidated Financial Statements

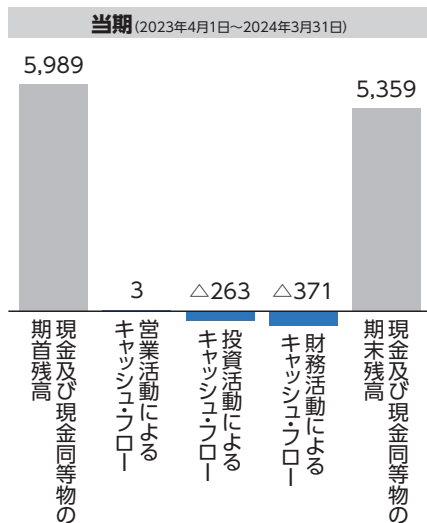
連結損益計算書 (単位：百万円)



連結貸借対照表 (単位：百万円)



連結キャッシュ・フロー計算書 (単位：百万円)



株式の状況

Stock Information

(2024年3月31日現在)

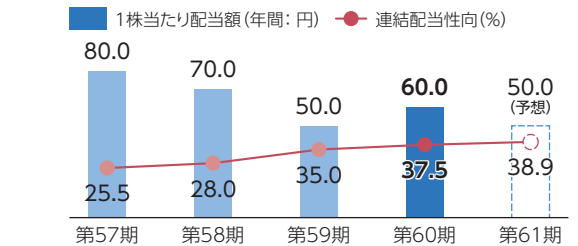
発行可能株式総数 18,970,000株
発行済株式の総数 7,378,050株
株主数 2,235名
大株主

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
高田信子	784,000	10.65
積水樹脂株式会社	777,000	10.56
ケー・エフ・シー取引先持株会	430,900	5.85
高田俊太	400,900	5.45
株式会社三菱UFJ銀行	307,000	4.17
光通信株式会社	176,600	2.40
株式会社中外精工	175,000	2.38
エムエスティ保険サービス株式会社	150,000	2.04
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	127,700	1.74
那須電機鉄工株式会社	125,200	1.70

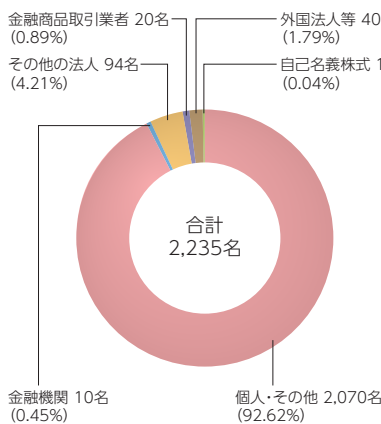
(注) 持株比率は、自己株式(18,512株)を控除して算出しております。

配当方針

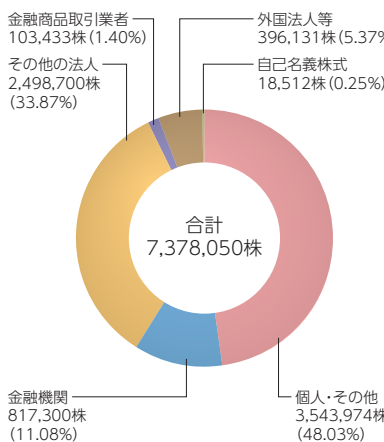
当社の配当政策は、安定的な利益還元を重視することを基本としておりますが、当該期の業績や今後の資金需要、財務状態も総合的に勘案し、株主各位のご期待にお応えしていきたいと考えております。また、内部留保金につきましては、財務体質の強化を図るとともに、経営環境の変化に柔軟に対応するための設備投資や研究開発、新規事業の拡大などに有効活用してまいります。



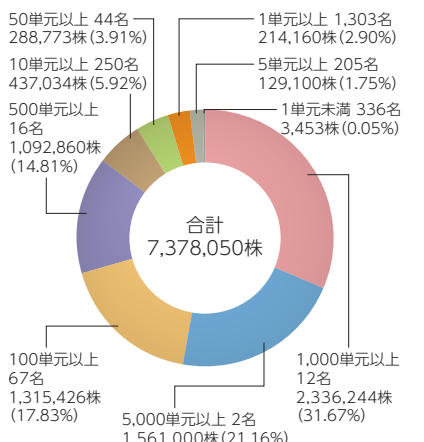
所有者別分布状況(株主数)



所有者別分布状況(株式数)



所有株数別株式分布状況



(2024年3月31日現在)

商号 株式会社 ケー・エフ・シー

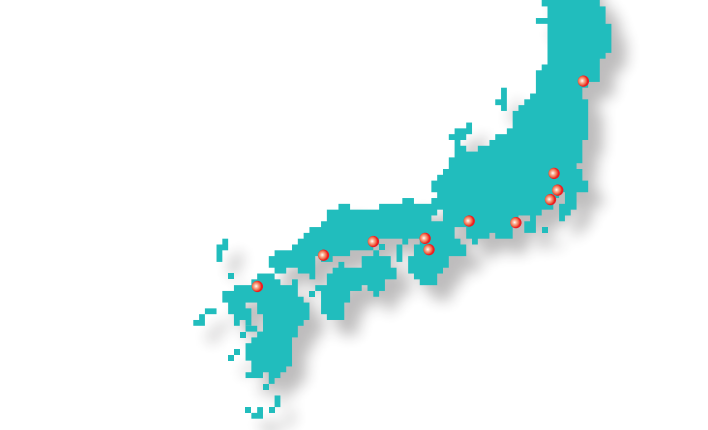
設立年月日 1965年3月4日

資本金 5億65百万円

従業員数 単独 293名 連結 312名

発行済株式の総数 7,378,050株

上場証券取引所 東京証券取引所
スタンダード市場



● 本店・本社

本店 〒530-0047
大阪市北区西天満3丁目2番17号 TEL (06) 6363-4188

東京本社 〒105-0011
東京都港区芝公園2丁目4番1号 TEL (03) 6402-8250
芝パークビルB館11階

● 流通センター

大阪流通センター 〒584-0023
大阪府富田林市若松町東 3丁目4番2号 TEL (0721) 24-7511

関東流通センター 〒347-0010
埼玉県加須市大桑1丁目19番地 TEL (0480) 76-0091

● 技術研究所

〒347-0010
埼玉県加須市大桑1丁目19番地 TEL (0480) 76-0095

〒584-0023
大阪府富田林市若松町東 3丁目4番2号 TEL (0721) 24-7511

役員 (2024年6月26日現在)

取締役及び監査役

代表取締役社長(兼)執行役員社長	高田俊太
専務取締役(兼)専務執行役員	石田裕
常務取締役(兼)常務執行役員	稲葉朗
取締役(兼)執行役員	石原淳
取締役(兼)執行役員	田村知幸
社外取締役	佐野裕
社外取締役	中桐万里子
常勤監査役	山口義弘
社外監査役	五島洋彦
社外監査役	渡部靖彦

執行役員

執行役員	大村史和
執行役員	平井良一
執行役員	足井裕吉
執行役員	新井崇秀
執行役員	菅原光陽
執行役員	瀬野光陽
執行役員	清水達也
執行役員	清本幸弘
執行役員	竹本幸弘
執行役員	佐竹幸州

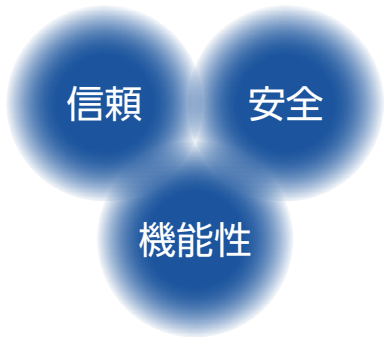
● 連結子会社（国内）

アールシーアイ株式会社

大阪本店 〒530-0047
大阪市北区西天満3丁目2番17号 TEL (06) 6363-4362

東京本社 〒105-0011
東京都港区芝公園2丁目4番1号 TEL (03) 6402-7570
芝パークビルB館11階

Trust Safety Functionality



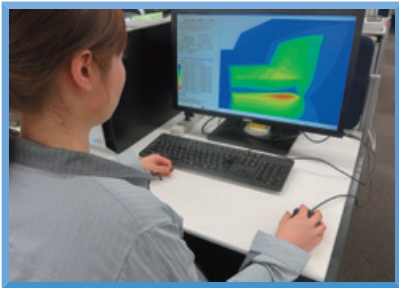
時代のニーズに先進技術で応え続けて半世紀 建設用アンカーのパイオニア

建築土木用アンカー製品からトンネル内装工事・サポートまで幅広く対応しております。

当社では、埼玉県加須市に全事業部門を横断的に統一した技術部門である技術研究所を設けております。それぞれの事業部からフィードバックされる情報、アイデアなどをもとに、新たな製品、技術、工法を開発するとともに、既存技術の異業種、他分野への適応などについても研究しております。

現場からのフィードバックにより、さらに安全性と機能性を追求した新たな製品開発に取り組んでおります。

設計・技術開発



現場施工

